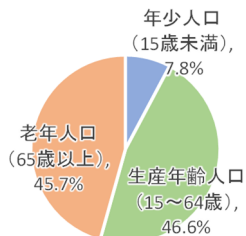


対田 (たいた)

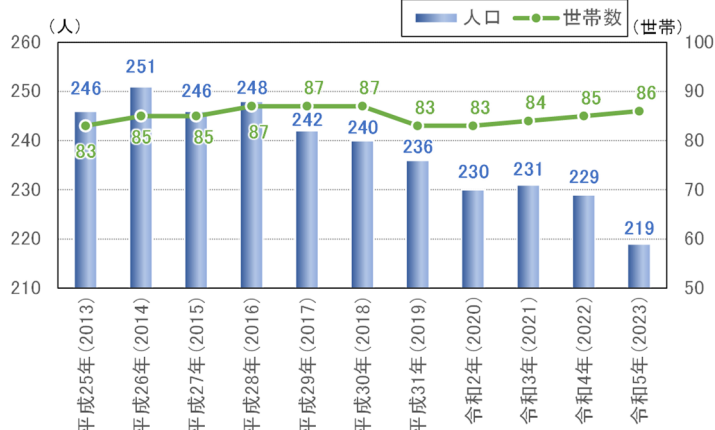
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	219人
世帯数	86世帯
高齢化率	45.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の中を JR 山陰本線が走り、同線以北は山林地帯が広がる。南側は田圃を隔てて久斗川が西流し、国道 178 号 (旧浜街道) が川に並走する。

地名由来 古くは滝田と言ひ、対田小字奥谷に古来四十八の滝があることにちなむという。「たいた」と「滝田」は何度か交代しながら、寛文 13 年 (1673) の亀谷山山論のあった時から元禄 10 年 (1697) までの間に「対田」になった。その記録に、「当村は先年たびたび洪水に迷惑し、“滝”は水につき新今小兵衛様 (豊岡の役人) の在番の折にお願いし、今の対の字にかえた」とある。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 対田愛宕山城跡・汗津城跡・高原城跡などの戦国期の砦跡が見られる。近世の対田村は、豊臣政権下では太閤蔵入地 (豊臣氏の直轄地) で、江戸時代には、慶長 10 年 (1605) 旗本宮城氏知行、正保元年 (1645) 幕府領、寛文 8 年 (1668) からは豊岡藩領となった。天保 5 年 (1834) の『但馬国郷帳』(天保郷帳) の村高は 684 石余。長年にわたり豊岡藩領であり、藩の西端の穀倉地帯として米蔵や札場出張所も置かれた。文化 12 年 (1815) の浜坂村を中心とする大一揆は、当地の米蔵の米相場が高いことから始まったものである。久美浜と鳥取を結んだ浜街道の一里塚跡がある。

明治 22 年 (1889) 大庭村の大字となり、昭和 29 年 (1954) からは浜坂町の大字となる。明治 24 年 (1891) の戸数 94、人口は男 194・女 198。

これまで把握している文化財

文化財の件数 171 件 (うち指定等文化財 2 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	2	3	0	
		石造物	1		0	
		工作物・その他の構造物	0		0	
	美術工芸品	彫刻	4	11	14	0
		絵画	0			0
		工芸品	3			0
		書跡・典籍	2			1
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	2	0		
		音楽	5	0		
		演劇	0	0		
		工芸技術	0	0		
		その他の無形文化財	0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	3	0	
		祭具	0		0	
		民具	0		0	
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	4	0	
		年中行事・民俗芸能	1		0	
		民俗技術	0		0	
記念物	遺跡	食文化	0	146	0	
		民間説話・俗信	0		0	
		その他の無形の民俗文化財	0		0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	8		0	
		古墳・その他の墓	131		0	
		城館跡・寺社跡	5		0	
	名勝地	街道・古道等	2	0	0	
		戦争遺跡	0		0	
		その他の遺跡	0		0	
		山岳・高原・丘陵	0		0	
		海岸・海浜・島嶼	0		0	
動物・植物・地質鉱物	河川・滝・渓谷・湖沼	0	2	0		
	公園・庭園	0		0		
	その他の名勝地	0		0		
	動物	0	2	0		
	植物	2		1		
文化的景観		地質鉱物	0	0	0	
		生活・生業・風土により形成された景観地	0		0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	0	



安養院



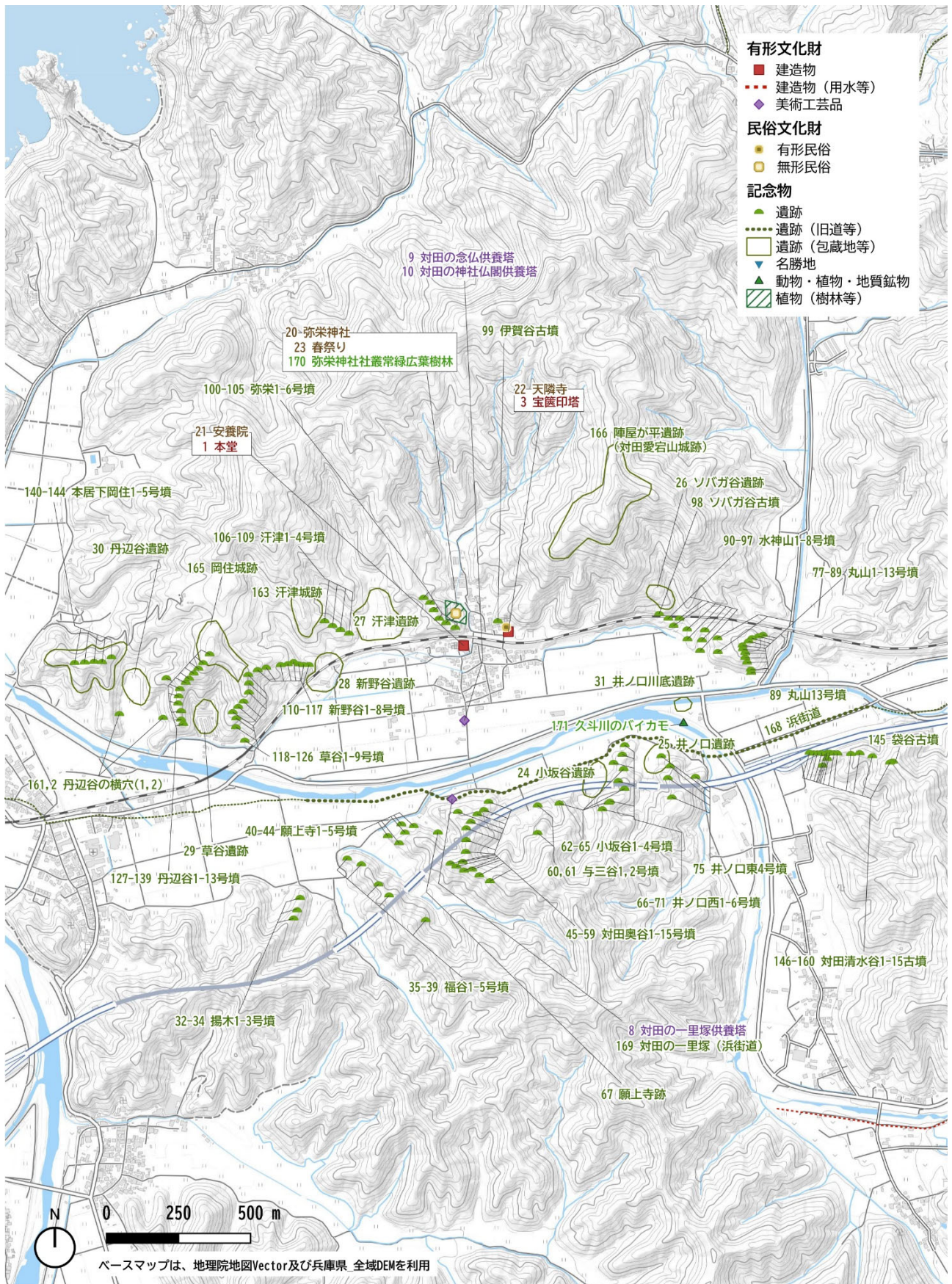
天隣寺



対田の一里塚・供養塔

※人口・世帯数は住民基本台帳 (令和5年4月現在) による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-12 対田

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	安養院本堂	正面全部の欄間は大きく幅広いもので、欄間上部には、紫雲に乗った雅楽器を奏でる優雅な天女が舞う。その下に2頭の竜が阿吽の呼吸でにらみ合う。朱色の残る目や宝珠、いらかの立ち上がりも逸品である。三面の欄間の二面には松と竹の間にたたずむ鳳凰、残り一面には上部に俵屋宗達の風神雷神の絵、下部には牡丹の花に囲まれた躍動感のある鳳凰が彫られている。作人は丹波柏原の彫物師中井清次良橘正用である。
	2	中村家住宅	明治時代の建築。木造2階建、瓦葺。
石造物	3	天隣寺の宝篋印塔 (1858年建立)	山門を入り、右手50mほど向こうの山麓に位置する。切石を四段積み上げ、その上に禅宗様須弥壇形式の基壇を設ける。龍潜寺の宝篋印塔も似た作りであり、同一の石工の可能性もある。基礎は正面と右側面に偈、向かって左側面に22人の戒名、裏面に4人の戒名と建立年紀(安政5年(1858)初秋)を刻む。塔身は、素地に金剛界四方仏種子を箱彫りに刻むが、現在は「ウーン」が反対を向いている。笠は下三段で、普通より一段多いが、上段が三段につくられているため低いものになっている。宝珠は低くて横に大きい。石材は凝灰岩。塔の高さは、基礎以上200cm、須弥壇以上252cm、地上全高350cm。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	安養院の不動尊 (不動明王像)	安養院の本尊。二童子をしたがえる。慈覚大師真作と伝えるが、鎌倉時代末期の作と思われる。寛政5年(1793)に台座・火焰・宮殿を京都の仏師吉田源之丞が新調している。像高51.5cm、台座高さ35cm。
	5	安養院の不動尊脇士 (制吒伽童子)	安養院の本尊不動尊の脇士。慈覚大師真作と伝えるが、鎌倉時代末期の作と思われる。寛政5年(1793)に台座・火焰・宮殿を京都の仏師吉田源之丞が新調している。像高46cm。
	6	安養院の不動尊脇士 (矜迦羅童子)	安養院の本尊不動尊の脇士。慈覚大師真作と伝えるが、鎌倉時代末期の作と思われる。寛政5年(1793)に台座・火焰・宮殿を京都の仏師吉田源之丞が新調している。像高48cm。
	7	天隣寺の釈迦如来像	天隣寺は応永11年(1404)太初禅師が田井楞嚴寺の「威徳庵として開いた寺で、本尊の釈迦如来像は、室町から江戸時代のものと思われる。
工芸品	8	対田の一里塚供養塔 (1728年建立)	一里塚跡と思われる土盛の上に建つ石碑。正面右に「金剛経・仁王経・心経」、中央に「大乗妙典全部書写之塔」、左に「弥陀経・弁天経・地藏経」とある。また、右側面に「享保十三戌申年(1728)七月朔日」とある。旅人の通行安全を祈願したものと考えられる。凝灰岩の角柱型。高さ137cm。
	9	対田の念仏供養塔 (1825年建立)	凝灰岩の自然石型。高さ134cm。文政8年(1825)9月建立。主碑銘は「南無阿弥陀佛」。「当村女講中」と刻まれており、村の女講中により建立されたもの。村の入口に神社仏閣塔などとともに並んでいる。
	10	対田の神社仏閣供養塔 (建立年不明)	凝灰岩の自然石型。高さ136cm。建立年不明。主碑銘は「奉神社仏閣供養塔」。
書跡・典籍	11	南溟禅師の寄進状	対田天隣寺所蔵。嘉慶2年(1388)南溟禅師が因幡国福部村服部庄の一部を清泰寺(現鳥取市福部村善光院)に寄進した時の文書で、天隣寺が楞嚴寺から分かれた時に譲られたものである。 町指定文化財
	12	関精拙禅師の書	関精拙禅師は、明治10年(1877)1月18日に浜坂に生まれ、3歳の時、対田天隣寺関敬州の弟子となり養子入籍した。17歳で大本山天龍寺僧堂に入門し、23歳で天隣寺住職となる。その後神戸布引徳光院、京都嵯峨慈濟院住職を経て、大正11年(1922)、45歳で大本山管長並びに住職となり、臨濟宗合同管長も兼任した。著書には「達磨の足跡」「天竺行脚」等があり、その詩書画を通じ天稟の才を後代に伝えている。

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	13	対田村文書	対田公民館に保管。
	14	天隣寺の棟札	享保9年(1724)の地藏菩薩石造6軀、文化7年(1813)の庫裏再建、明和7年(1770)の本堂再建などの棟札が残る。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	15	対田の嫁入り唄 (実家を出発する時の唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p149 参照
	16	対田の嫁入り唄 (道中唄)(1)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p149 参照
	17	対田の嫁入り唄 (道中唄)(2)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p150 参照
	18	対田の仕事唄 (もみひき唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p151 参照
	19	仕事唄 (田白唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p152 参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	20	弥栄神社	祭神は素戔鳴命、稲田姫命、保食神。創立年月は不明であるが、延宝元年(1673)に本殿を再造している。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には、常立神社(國常立命)、稻荷神社(宇賀魂命)がある。
	21	安養院	天台宗の寺院。本尊は不動明王(慈覚大師作)。貞観年間(859~877)、現在の相應峰寺が九品山極楽寺と称した頃、同寺の塔中寺院であったが、寛永5年(1628)、本尊と共に現在地に移転する。当時はかなり広い境内であったが、明治末期の山陰本線敷設に伴い買収されて今日の広さとなる。
	22	天隣寺	応永11年(1404)、京都嵐山の天龍寺夢窓国師の法孫(楞嚴寺南溟和尚の弟子)太初和尚が開創。古くは威徳庵と称し、宝永4年(1707)、第六世泰翁和尚の代に威徳山天隣寺とした。その後、文化6年(1809)に大火に遭い、翌年に本堂・庫裏を再建。明治末期の山陰本線敷設に伴い山門が移設され、境内面積も縮小され、庫裏の改築が必要となり、栃谷「山田屋」家屋を購入して庫裏とした。平成18~19年(2006~2007)に全面改築。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	23	弥栄神社春祭り	4月14日に行われる。「榊」と「子ども神輿」が無病息災を祈願し、各家を清めながらまわる。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	24	小坂谷遺跡	古墳時代の散布地。須恵器片が多数出土。土取りのため古墳が破壊された可能性がある。
	25	井ノ口遺跡	古墳時代の散布地。須恵器片が出土。
	26	ソバガ谷遺跡	古墳時代の散布地。須恵器片・土師器片が多数出土。古墳が破壊された可能性もある。
	27	汗津遺跡	弥生~古墳時代の散布地。土師器・須恵器片が多数出土。

2-12 対田

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	28	新野谷遺跡	縄文～古墳時代の散布地。縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器片が多数散布。
	29	草谷遺跡	古墳時代の散布地。工事中に土師器片が出土。
	30	丹辺谷遺跡	弥生～古墳時代の散布地。土師器・須恵器・弥生土器片などが多数出土。
	31	井ノ口川底遺跡	河川工事中に土師器片が多数出土。
古墳・ その他の墓	32	揚木 1 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。
	33	揚木 2 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 4m。
	34	揚木 3 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 9m。
	35	福谷 1 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。
	36	福谷 2 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。
	37	福谷 3 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 6m。階段状を示す。
	38	福谷 4 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 16m。階段状を示す。
	39	福谷 5 号墳	古墳時代の古墳か。
	40	願上寺 1 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	41	願上寺 2 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	42	願上寺 3 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	43	願上寺 4 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	44	願上寺 5 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	45	対田奥谷 1 号墳	古墳時代の古墳。径 8m の円墳。
	46	対田奥谷 2 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。階段状を示す。
	47	対田奥谷 3 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	48	対田奥谷 4 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	49	対田奥谷 5 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	50	対田奥谷 6 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	51	対田奥谷 7 号墳	古墳時代の古墳。方形、13m×8m。階段状を示す。
	52	対田奥谷 8 号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×8m。階段状を示す。
	53	対田奥谷 9 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	54	対田奥谷 10 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	55	対田奥谷 11 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 5m。階段状を示す。
	56	対田奥谷 12 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 6m。階段状を示す。
	57	対田奥谷 13 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 8m。階段状を示す。
	58	対田奥谷 14 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 8m。階段状を示す。
	59	対田奥谷 15 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 10m。
	60	与三谷 1 号墳	古墳時代の古墳。昭和 46 年（1971）に須恵器・大刀が出土。全壊。
	61	与三谷 2 号墳	古墳時代の古墳か。
	62	小坂谷 1 号墳	古墳時代の古墳。全壊。内行花文鏡、鉄刀、鋤ないし鋤、鉄鏃、玉（白玉、ガラス玉）が出土し、周囲の古墳と比べ副葬品が多く、地域を代表するような有力者の墓と考えられる。出土品から 6 世紀前半頃の築造と思われる。
	63	小坂谷 2 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。墳頂部で木棺直葬の主体部 1 基を検出。土師器杯、須恵器はぞう（瓦泉）が出土。
64	小坂谷 3 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 6m。主体部は墳丘山側にあるが、墓壙の大半が流失し、棺底のみを検出。棺内からは須恵器杯身、杯蓋、土師器壺、付近から刀子、墳丘上からは須恵器横瓶が出土。	
65	小坂谷 4 号墳	古墳時代の古墳か。墳丘が大きく削平されているため、埋葬施設は不明。土師器高杯、中世の土師器碗が出土。	

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	66	井ノ口西1号墳	古墳時代の横穴墓。
	67	井ノ口西2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径15m。
	68	井ノ口西3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	69	井ノ口西4号墳	古墳時代の古墳。円墳、一辺5m。階段状を示す。
	70	井ノ口西5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	71	井ノ口西6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径20m。
	72	井ノ口東1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	73	井ノ口東2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	74	井ノ口東3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	75	井ノ口東4号墳	古墳時代の古墳。方形、15m×10m。
	76	井ノ口東5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	77	丸山1号墳	古墳時代の古墳。11m×7mの楕円形。
	78	丸山2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径11m。
	79	丸山3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	80	丸山4号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。
	81	丸山5号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。
	82	丸山6号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。
	83	丸山7号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。
	84	丸山8号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×7m。階段状を示す。
	85	丸山9号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。
	86	丸山10号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×7m。階段状を示す。
	87	丸山11号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。
	88	丸山12号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。
	89	丸山13号墳	古墳時代の古墳。円墳、径5m。
	90	水神山1号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出（一部破壊されている）。須恵器が出土。
	91	水神山2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	92	水神山3号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室（3m前後の石組）の一部が露出。
	93	水神山4号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出。
	94	水神山5号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出。
	95	水神山6号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出。
	96	水神山7号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
97	水神山8号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。	
98	ソバガ谷古墳	古墳時代の古墳。横穴式石室。須恵器・刀が出土。群集墳の可能性はあるが、大半は破壊されている。	
99	伊賀谷古墳	古墳時代の古墳。横穴式石室（6m）の一部が露出。土師器片が出土。群集墳の可能性はある。	
100	弥栄1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径12m。一部破壊されている。	
101	弥栄2号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。	
102	弥栄3号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。階段状を示す。	
103	弥栄4号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。	
104	弥栄5号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。階段状を示す。	
105	弥栄6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径12m。	

2-12 対田

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	106	汗津1号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。階段状を示す。山城として利用された可能性がある。
	107	汗津2号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。階段状を示す。山城として利用された可能性がある。
	108	汗津3号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺6m。階段状を示す。山城として利用された可能性がある。
	109	汗津4号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺10m。階段状を示す。山城として利用された可能性がある。
	110	新野谷1号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室(2×1.4m)の一部(天井石らしい石5個)が露出。
	111	新野谷2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	112	新野谷3号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。一部破壊されている。
	113	新野谷4号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。一部破壊されている。
	114	新野谷5号墳	古墳時代の古墳。円墳、径12m。
	115	新野谷6号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺9m。
	116	新野谷7号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。
	117	新野谷8号墳	古墳時代の古墳。山城の可能性もある。
	118	草谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m、横穴式石室が露出。
	119	草谷2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径5m。
	120	草谷3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径4m。
	121	草谷4号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	122	草谷5号墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出。
	123	草谷6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径4m。
	124	草谷7号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。階段状を示す。
	125	草谷8号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	126	草谷9号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。玉石数個が散乱している。
	127	丹辺谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	128	丹辺谷2号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺5m。
	129	丹辺谷3号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺6m。
	130	丹辺谷4号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺6m。
	131	丹辺谷5号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺6m。
	132	丹辺谷6号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。
	133	丹辺谷7号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺8m。
	134	丹辺谷8号墳	古墳時代の古墳。方形、15m×6m。
	135	丹辺谷9号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×6m。
	136	丹辺谷10号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。
	137	丹辺谷11号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺7m。
	138	丹辺谷12号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺6m。
	139	丹辺谷13号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×5m。
140	本居下岡住1号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。1~5号墳の各古墳間の高低差は少なく、浅い堀で区画されている。古墳群の両側に深い堀切があることから、山城として利用された可能性がある。	
141	本居下岡住2号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。1~5号墳の各古墳間の高低差は少なく、浅い堀で区画されている。古墳群の両側に深い堀切があることから、山城として利用された可能性がある。	

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	142	本居下岡住 3 号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。1～5 号墳の各古墳間の高低差は少なく、浅い堀で区画されている。古墳群の両側に深い堀切があることから、山城として利用された可能性がある。
	143	本居下岡住 4 号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。1～5 号墳の各古墳間の高低差は少なく、浅い堀で区画されている。古墳群の両側に深い堀切があることから、山城として利用された可能性がある。
	144	本居下岡住 5 号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。1～5 号墳の各古墳間の高低差は少なく、浅い堀で区画されている。古墳群の両側に深い堀切があることから、山城として利用された可能性がある。
	145	袋谷古墳	古墳時代の古墳。
	146	対田清水谷 1 号墳	古墳時代の古墳。円墳。木棺墓 1 基を検出。
	147	対田清水谷 2 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 1 基を検出。墓壇からは高坏や甕などの小片が出土。
	148	対田清水谷 3 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 3 基と土坑 1 基を検出。甕、壺、高坏、鼓形器台、標石が出土。
	149	対田清水谷 4 号墳	古墳時代の古墳。埋葬主体は検出されていないが、須恵器提瓶、須恵器はぞう（瓦泉）、土師器高坏脚部の破片などが出土。
	150	対田清水谷 5 号墳	古墳時代の古墳。台状墓。墳頂部上面に 3 基の木棺直葬の主体部をもち、墳丘南西斜面に 1 基の木棺直葬が構築。墳頂部に 1 基の経塚があり、13 世紀代のものと思われる銅鏡、土師器小皿などが出土。
	151	対田清水谷 6 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 3 基と土坑 2 基を検出。甕、高坏、鼓形器台の破片が出土。
	152	対田清水谷 7 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 5 基を検出。壺、甕などの破片を出土。
	153	対田清水谷 8 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 1 基と土坑 1 基を検出。椀形高坏、甕、砥石などの破片が出土。
	154	対田清水谷 9 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 1 基を検出。鼓形器台、石杵が出土。石杵には赤色顔料（水銀朱）の付着が確認されている。
	155	対田清水谷 10 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 2 基を検出。甕、高坏、砥石の破片が出土。
	156	対田清水谷 11 号墳	古墳時代の古墳。木棺墓 1 基と土坑 1 基を検出。鉄鏃（長頸鏃）が出土。
	157	対田清水谷 12 号墳	弥生時代後期の台状墓。墳頂部上面に 3 基の木棺直葬の主体部を検出。墳頂部からは鉢又は甕の口縁部の破片を出土。墳丘南裾からは墳丘上から転落したと思われる弥生土器高坏の破片を出土。
	158	対田清水谷 13 号墳	古墳時代の古墳か。墳頂部平坦面に 2 基の木棺直葬の主体部を検出。遺物が出土していないため時期は判明しない。
	159	対田清水谷 14 号墳	古墳時代の古墳。階段式の墳丘。木棺直葬の主体部 1 基を検出し、墓壇埋土上面と墓壇内から弥生土器が出土。墳丘下から縄文時代に属する石皿と磨石が出土。
160	対田清水谷 15 号墳	古墳時代の古墳。階段式の墳丘をもち造成された平坦部に木棺直葬の主体部 1 基を検出。墓壇上から土器が出土し、標石と考えられる石が検出。	
161	丹辺谷の横穴(1)	横穴 2 基の可能性がある。	
162	丹辺谷の横穴(2)	横穴 3 基の可能性がある。	
城館跡・ 寺社跡	163	汗津城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。城の主郭はかなり広いが、全体的には小規模な城郭である。主郭背後の堀切・堅堀は戦国期の改修と思われるが、断続的に小曲輪を構築していることから、南北朝期に築城起源をもつと思われる。地侍層の城郭と考えられる。
	164	高原城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。頂部は古墳を利用した曲輪群で、小規模な曲輪群を断続的に配置する縄張りから、築城起源は南北朝期に遡るとされる。大規模な深い堀切は、室町期の可能性が高い。地侍・名主層の城郭（村の城）と思われる。

2-12 対田

分類	番号	名称	概要
城館跡・ 寺社跡	165	岡住城跡	中世の城館跡。古墳を利用した山城。
	166	陣屋が平遺跡 (対田愛宕山城跡)	中世の城館跡。全壊。広い主郭に帯曲輪を巡らせ、北東尾根に浅い堀切を設けた単純な縄張りである。城のある山頂部は平坦で、堀切も浅く、防御性は高くないが、城にいたる急斜面によって守備されている城である。村人が逃げ込むための「村の城」の範疇に入るものと考えられる。
	167	願上寺跡	近世寺院跡。墓地及び平坦地がある。
街道・古道等	168	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記(第5次)などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	169	対田の一里塚(浜街道)	久斗川左岸、字願上寺付近。土盛りの上に享保13年(1728)の大乗妙典全部書写供養塔と榎の古木がある。この一里塚は、豊岡女代神社文書や三尾中村家文書に記載がみられる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	170	弥栄神社叢常緑広葉樹林	対田弥栄神社を覆う森には、シイの大木を中心とする原生林で、幹回り3~4mのシイを中心に、ケヤキや幹回り3.3mのイチョウウやシラカシ・ヤマギリなどの大木が見られる。 町指定文化財
	171	久斗川のバイカモ	浅くてきれいな流水中に生える多年草。兵庫県レッドリスト(植物)ではBランク(兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧)に位置付けられている。

